陳　情　文　書　表

受理番号	陳　情　第　１０７　号
件　　名	排せつ課題を抱える障がい者（児）への日常生活用具認定追加について
要　　旨	排せつ予測支援機器ＤＦｒｅｅを新潟県新潟市において、日常生活用具として認定いただくよう陳情します。 令和６年３月の障害保健福祉関係主管課長会議資料、日常生活用具給付等事業の適正な実施についてには、日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには、各市町村において効果的、効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当事者団体等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては、平成 18 年の障害者自立支援法以前に国が定めた基準額や実施方法にとらわれることなく、定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した、適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたいと記載があります。これに基づき、排せつ予測支援機器を、新潟市において、日常生活用具として追加認定いただきたく存じます。 （次頁につづく）
付託年月日 委員会	令和７年６月 13 日　　市民厚生常任委員会
受　　理	令和７年５月 19 日　　第 91 号

陳情第 107 号

	理由 １　基本情報、排せつに関する情報 　５歳、女児、自閉症、知的障がい、療育手帳Ｂ。発語は単語程度、言葉と気持ちが伴わず感情を伝えられていない。自立歩行ができるため、トイレへ移動はできるが、尿意が曖昧（おむつで排せつしても伝えない等)、タイミングを図りトイレへ誘導するが、タイミングが合わず、トイレで排尿できるのは数回程度となっている。また、排尿間隔が近く、30 分置きにおむつで排尿している。何となくトイレで排せつすることを認知できている感じもあることから、トイレトレーニングを始めたいと思っていたものの、タイミングが分からず困っていました。このような状況から、ＤＦｒｅｅを使うことでトイレトレーニングができるのではないかと思い、利用を始めました。 ２　排せつ予測支援機器ＤＦｒｅｅは、超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿のたまり具合をゼロから 10 で数値化します。その数値は専用タブレットや自身のスマートフォンから確認でき、排尿のタイミングを予測し、排尿の機会を本人または介助を行う者に通知することができます。我が家ではＤＦｒｅｅの活用を始めてから、数値化された尿意を見て、今までよりトイレへ誘導する回数が増えました。今までは自分一人で障がい児育児が大変で手が回らず、またトイレへ連れていきたい気持ちがあるものの、尿がたまっているか分からず時間を気にしながら誘導をしていたので、大変だなと正直感じていました。しかし、ＤＦｒｅｅがタイミングを教えてくれるので、誘導しやすくなっています。トイレでの排尿回数も増えてきました。今まではおむつが外れるイメージを全く持てずにいましたが、行く行くはＤＦｒｅｅを活用し、本人から尿意を伝えられるようになってほしいなと思っています。このように、尿意を感じることができない障がい者にとって、ＤＦｒｅｅは非常に有用です。ＤＦｒｅｅは令和４年４月に特定福祉用具に認定され、介護保険適用となっています。ぜひ障がい者にも負担が少なく購入できるようになることを求め、上記事項を陳情いたします。